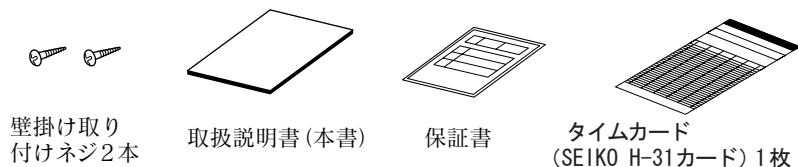
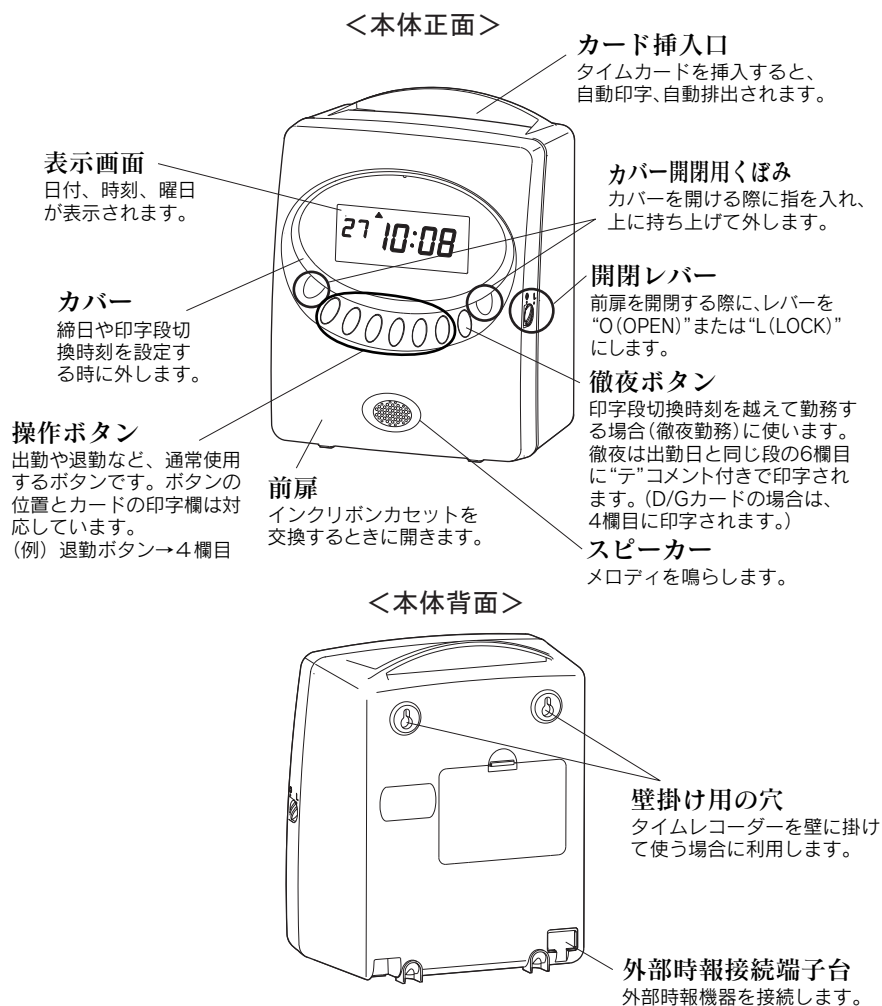


3. ご使用になる前に

(1) 付属品をお確かめください



(2) 各部の名称とはたらき



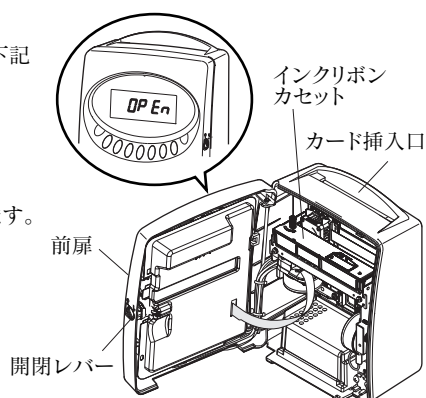
＜前扉を開けた場合＞

●前扉の開け方

インクリボンカセットを交換するときは、下記の手順で前扉を開閉してください。

(操作手順)

- ①開閉レバーを“O (OPEN)”に合わせます。
- ②前扉を開きます。
- ③インクリボンカセットを交換後、前扉を閉じます。
- ④開閉レバーを“L (LOCK)”に合わせます。



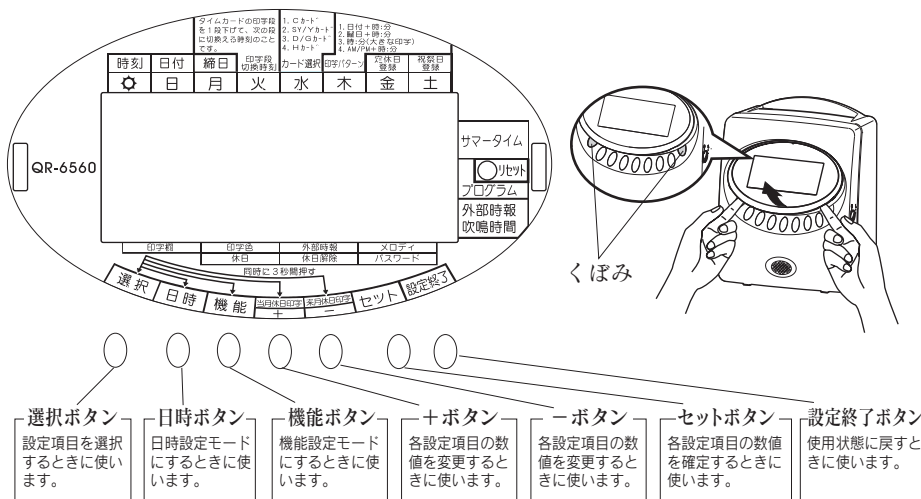
重要!

開閉レバーを“O (OPEN)”に合わせたまましていると、タイムレコーダーが動作しなくなります。前扉を閉めた後は、必ず開閉レバーを“L (LOCK)”に合わせてロックしてください。



設定については「5.設定のしかた」(13ページ)、インクリボンカセットの交換については「9.リボンの交換」(46ページ)をご参照ください。

●締日や印字段切換時刻などを設定する時…カバーを外します。



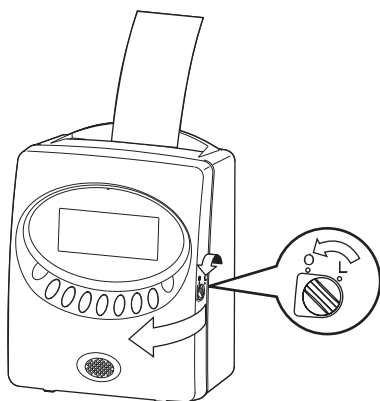
(3) タイムレコーダー内部のパッドを外してください

タイムレコーダー内部には、輸送時の振動などから製品を保護するためのパッドが入っています。

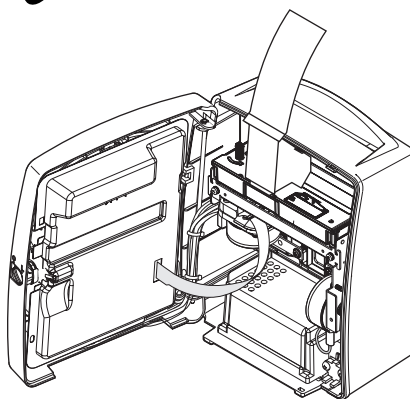
! 電源を入れる前に必ずパッドをタイムレコーダーから抜いてください。

※ご使用时、パッドは不要です。

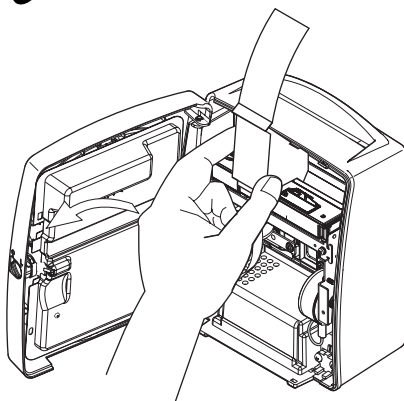
1 タイムレコーダー側面にある開閉レバーを“O (OPEN)”に合わせます。



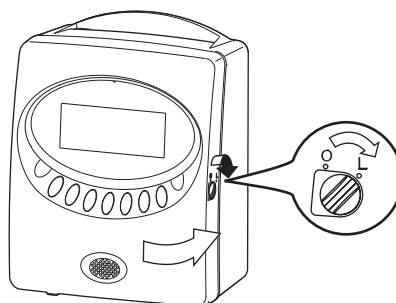
2 前扉を開きます。



3 “パッド”を抜きます。



4 前扉を閉めて、開閉レバーを“L (LOCK)”に合わせます。



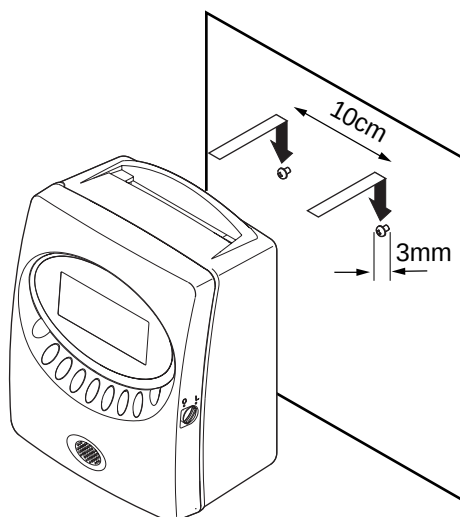
(4) 壁掛けの方法

付属のネジを使って、タイムレコーダーを壁に掛けることができます。壁に掛けて使用する場合には、次のようにしてください。

- ① 付属の壁掛け取り付けネジ2本を、横10cmの間隔で壁に取り付けます。このときネジの頭を3mmほど出して、取り付けてください。
- ② タイムレコーダー背面の壁掛け用の穴を使って、ネジに引っかけます。



同梱されているネジは木造の厚い壁や木の柱でご使用されることを前提としており、それ以外の条件の場所ではご使用にならないようにしてください。タイムレコーダーが落下してお客様がケガをされたり、また本体の故障の原因となるおそれがあります。



設置について

次のような場所でのご使用は避けてください。

- 湿気やほこりの多い場所
- 直射日光のあたる場所
- 振動の激しい場所または常時振動が発生する場所
- 気温が-5℃以下や、45℃以上の場所
- 化学薬品やオゾンなどの影響を受ける場所

4. 日常の操作

時刻や日付などタイムレコーダーが動作するために必要な事柄は、あらかじめ設定してありますので、パッドを外した後、**電源を入れてすぐお使いいただけます。**

工場出荷時の設定

- ・ 縮日 〈初期設定：月末締め〉
- ・ 印字段切替時刻 〈初期設定：0:00〉
- ・ 印字パターン 〈初期設定：3.時:分 (大きな印字)〉
- ・ カード選択 〈初期設定：4.Hカード〉
- ・ 定休日登録 〈初期設定：6-7 (毎週、日曜日)〉
- ・ 外部時報 〈初期設定：5秒間〉

そのままの状態ですぐにお使いいただけますが、縮日などが実際にご使用いただく場合と異なるときには、設定を変更してください。

 「5. 設定のしかた」(13ページ) をご参照ください。



前述の「3. ご使用になる前に」(5ページ) を必ずお読みください。

タイムレコーダーの使い方はきわめて簡単です。タイムカードを挿入していただきますと、カードは本体に自動引込みされ、印字後排出されます。



カード挿入口にクリップ等の金属は絶対に入れないでください。また、カードを無理に押し込まないでください。故障の原因となる恐れがあります。

● 印字欄、印字段 (印字行) とは

印字欄とは……

印字欄とはタイムカードの横方向の印字するマス目のことを言います。

通常、左のマス目より1欄目、2欄目……と呼び、1日の中で、出勤や退勤などの印字する位置を変えたい場合に利用します。

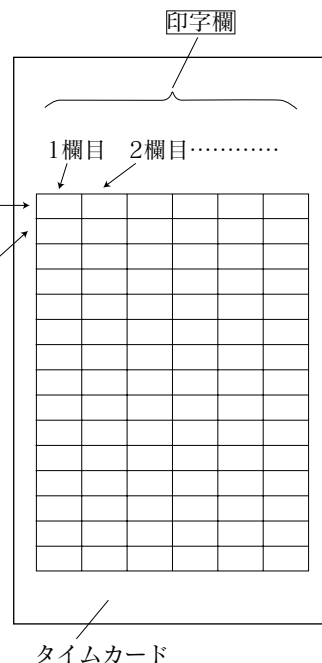
本製品は1～6欄目まで印字することができます。

印字段あるいは印字行とは……

印字段(行)とは、タイムカードの縦方向の印字するマス目のことを言います。

通常、上のマス目より1段目、2段目……あるいは1行目、2行目……と呼び、日が変わると1つ下の段(行)に印字します。

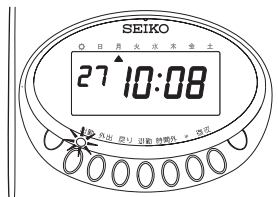
印
字
段
あ
る
い
は
印
字
行



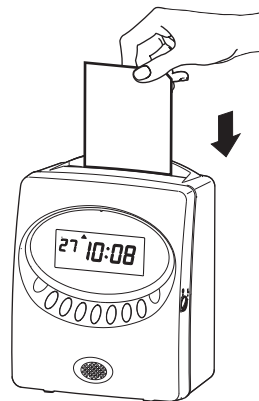
●ランプがついている印字欄に打刻します

タイムレコーダーは各操作ボタンのランプがついている位置 (印字欄) に印字します。

例 : 1 欄目に印字する場合

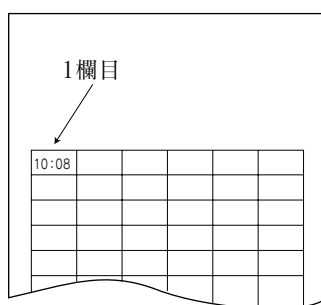


① “出勤” のランプがついていることを確認します。



② タイムカードをタイムレコーダーにかるく入れます。カードは自動的にタイムレコーダーに引き込まれます。

印字後、自動的にカードはタイムレコーダーから上がってきます。



③ 印字は 1 欄目に打たれます。

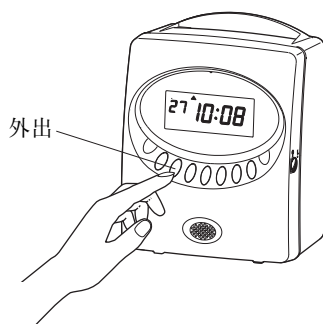
タイムレコーダーは1日に6回 (6欄分) 印字することができます。

●打ちたい印字欄を変えるには……

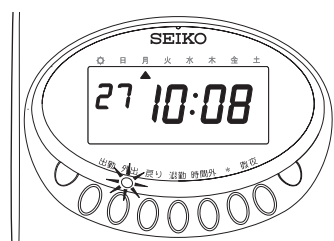
印字欄を変更する場合は、“操作ボタン”を押してからタイムカードを入れます。

例：1 欄目から 2 欄目に印字位置を変えて打つ場合

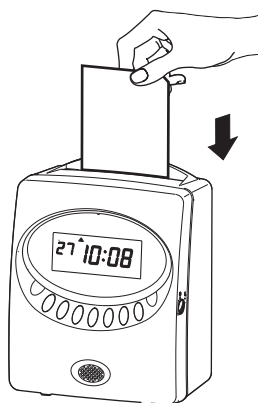
1 外出ボタンを押します。



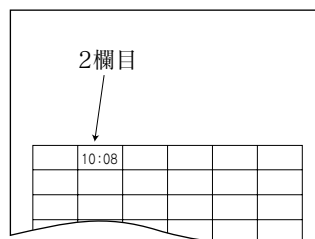
2 “外出”のランプがつかます。



3 タイムカードをタイムレコーダーに入れます。



4 印字は2欄目に打たれます。



重要!

以降、次の印字段切換時刻までは、違う印字欄の“操作ボタン”を押さないかぎり2欄目に印字します。



「印字段切換時刻の設定」(18ページ)をご参照ください。

プログラムを設定すれば、ボタン操作をしなくても、時間によって印字欄を変えることができます。



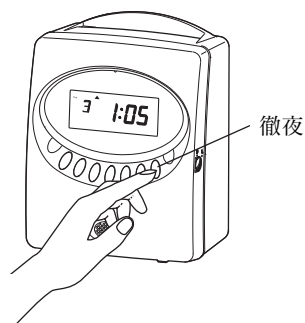
「プログラムの設定」(31ページ)をご参照ください。

●徹夜印字をするには

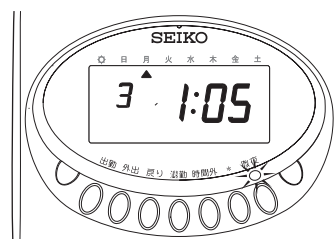
印字段切替時刻を過ぎて退勤する場合は、**徹夜**ボタンを押してからタイムカードをカード挿入口に入れます。そうすることにより、出勤と同じ日付に退勤の時刻を印字することができます。

 「印字段切替時刻の設定」(18ページ)をご参照ください。

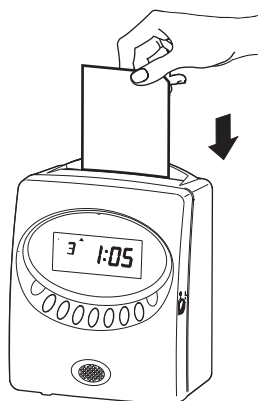
1 **徹夜**ボタンを押します。



2 “徹夜”のランプがつかます。



3 タイムカードをタイムレコーダーに入れます。



4 印字は出勤日と同じ段の6欄目に“テ”コメント付きで印字されます。(D/Gカードの場合は、4欄目に印字されます。)

例 印字パターンが「3.時:分(大きな印字)」の場合

	1欄	2欄	3欄	4欄	5欄	6欄
1	8:25	12:03	12:58	17:14	17:27	21:05
2	8:38	12:17	21:35	1:08	4:58	1:05テ
3						

徹夜のコメント“テ”が付きます。

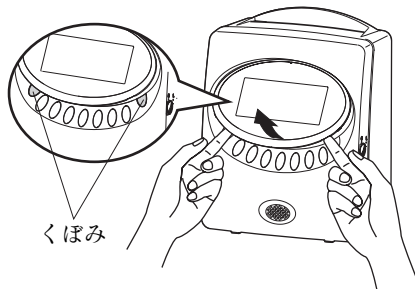
5. 設定のしかた

● 設定の準備

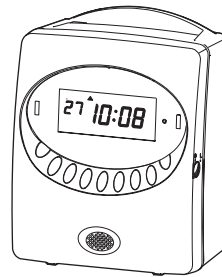
曜日や時刻など設定する前に、“カバー”を外して設定できる状態にします。

! 設定する時は、コンセントに電源プラグをさしこみ通电した状態で行ってください。

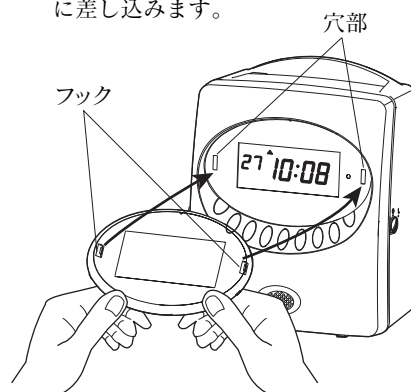
1 カバー下部の左右2カ所のくぼみに指を入れ、手前に引くようにしてカバーを外します。



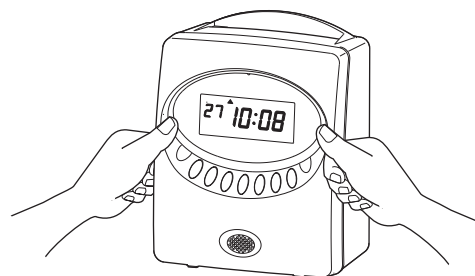
2 表示画面を見ながら、“操作ボタン”を使うことにより設定ができます。



3 設定終了後は、カバー裏面にあるフックをタイムレコーダーの穴部に差し込みます。



4 カバー下部の両端を押さえて、“パチン”ととめます。



●設定の手順

各設定の詳細については次ページ以降をご覧ください。

日時設定モード

日頃の時間の修正などに設定します。



選択 ボタンと**日時** ボタンを同時に約3秒間押して設定モードに入ります。

時刻の設定



あらかじめ現在時刻に設定されていますが、時刻が進んだり、遅れたりした時に操作してください。

日付の設定



あらかじめ年(西暦)、月、日は設定されていますので、あらためて設定する必要はありません。

機能設定モード

締日や印字段切換時刻などを設定します。



選択 ボタンと**機能** ボタンを同時に約3秒間押して設定モードに入ります。

締日の設定



ご使用になるタイムカードの締日に合わせて設定します。
C-31のタイムカードは、15日締としてもご使用いただけます。
その際は、締日の設定を“31(月末締)”にして、赤い面からご使用ください。

印字段切換時刻の設定



タイムカードの印字を1段下げて、次の日の段に切り換える時刻を設定します。

カード選択の設定



ご使用になるタームカードの種類を設定します。
1.Cカード 2.SY/Yカード 3.D/Gカード 4.Hカード

印字パターンの設定



タイムカードに印字するパターンを4種類の中から選択できます。

定休日の登録



タイムカードに“休日”のマークを印字する定休日を登録します。

祝祭日の登録



タイムカードに“休日”のマークを印字する祝日や祭日を登録します。

サマータイムの設定



サマータイムの開始日と終了日が設定できます。

プログラムの設定



曜日と時刻毎に、印字欄、印字色、外部時報、メロディの吹鳴のプログラムを設定します。
プログラムは48個まで設定できます。

外部時報の吹鳴時間の設定



外部時報を吹鳴時間を秒単位で1秒間～30秒間まで設定できます。

パスワードの設定



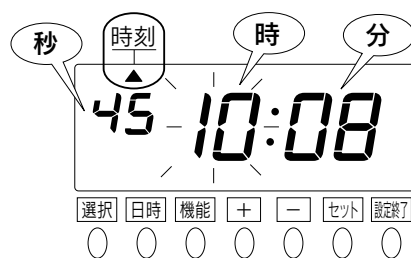
改ざん目的などの故意の時刻修正や設定の変更を防止するために4桁のパスワードを設定できます。

●日時設定モード

時刻の設定

あらかじめ現在時刻に設定されていますが、時刻が進んだり、遅れたりした時は修正してください。時刻表示は24時間制です。

例 10時8分を10時9分に変更する場合



1 選択ボタンと日時ボタンを同時に約3秒間押します。

日時設定モードになります。画面に表示されている“▲”が「時刻」に合い、“時:分”の“時”が点滅します。

点滅しているところを変更できます。



2 例では“時”は10時のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。これで10時が設定できました。

この時、表示の点滅は“時”から“分”に移ります。

また、“秒”は“00”秒になります。



3 時刻の“分”を変更します。

↑ボタンを押して、“09”分に合わせ、次にセットボタンを押します。この時、“秒”が進みだします。



4 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。

表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。

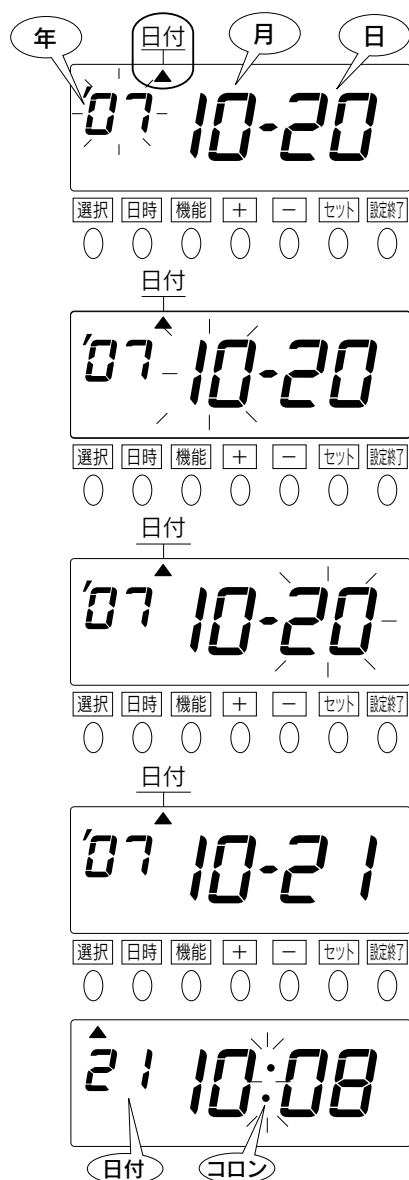
カバーをつけてご使用ください。

日付の設定

あらかじめ年(西暦)、月、日は設定されています。(あらためて設定する必要はありません。) オールクリア操作などで、初期状態に戻した場合は、あらためて設定してください。

 「オールクリア」(41ページ)をご参照ください。

例 2007年10月20日を同年同月21日に変更する場合



① **選択**ボタンと**日時**ボタンを同時に約3秒間押します。

日時設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「時刻」に合います。**選択**ボタンを押して、“▲”を「日付」に合わせてください。“年”が点滅します。年は西暦下2桁で表示されます。

点滅しているところが変更できます。

② 例では、“年”は2007年のまま変更しませんので、このまま**セット**ボタンを押します。

これで2007年が設定できました。この時、表示の点滅は“年”から“月”に移ります。

③ 例では“月”は10月のまま変更しませんので、このまま**セット**ボタンを押します。

これで“10”月が設定できました。この時、表示の点滅は“月”から“日”に移ります。

④ “日”を変更します。

+ボタンを押して“21”日に合わせ次に**セット**ボタンを押します。これで“21”日が設定できました。

⑤ 設定状態からご使用状態に戻すため、**設定終了**ボタンを押します。これで設定は終了です。

表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。

カバーをつけてご使用ください。

●機能設定モード

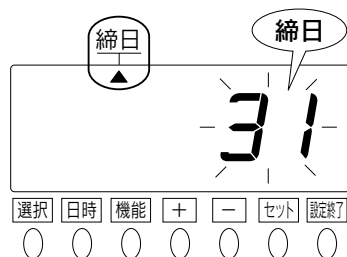
縮日の設定

工場出荷時の設定は“31(月末縮)”になっています。
ご使用になるタイムカードの縮日に合わせて設定してください。

大の月、小の月によらず、月末締めの場合は縮日“31”日のままでご利用いただけます。C-31のタイムカードは、15日縮としてもご利用いただけます。
その際は、縮日の設定を“31(月末縮)”にして、赤い面からご使用ください。

例 月末締め(31日)を20日締めに変更する場合

※月末締めは“31”と設定します。



- 1 **選択**ボタンと**機能**ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになります。
画面に表示されている“▲”が「縮日」に合います。



- 2 **+**ボタンを押して、“20”日に合わせ、次に**セット**ボタンを押します。
これで“20”日が設定できました。



- 3 設定状態からご使用状態に戻すため、**設定終了**ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

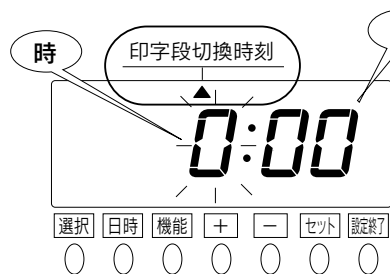
印字段切換時刻の設定 **重要!**

印字段切換時刻とは、タイムカードの印字を1段下げて、次の日の段に切り換える時刻のことです。

あらかじめ午前0:00に設定されていますが、この時刻に勤務されている従業員がいない場合は、あらためて設定する必要はありません。

また、印字段切換時刻をまたいで退勤する場合には、徹夜ボタンを押してからタイムカードを入れてください。

例 印字段切換時刻を午前0:00から午前5:00に変更する場合



- 1 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して“▲”を「印字段切換時刻」に合わせてください。

点滅しているところが変更できます。



- 2 上ボタンを押して“5”時に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで“時”が設定できました。この時表示の点滅は“時”から“分”に移ります。



- 3 例では“分”は“00”分のまま変更しませんので、このままもう一度セットボタンを押します。これで“00”分が設定できました。



- 4 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

カードの選択

ご使用になるタイムカードの種類を4種類の中から選択してください。

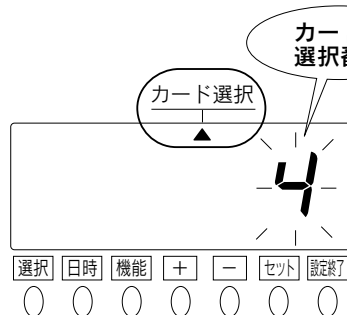
カードの
選択番号

対応するカードの種類

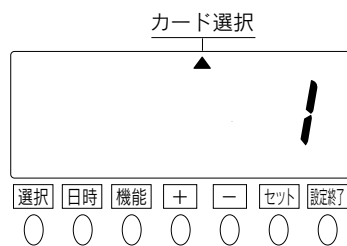
1. Cカード → C, C-20, C-25, C-31 (6欄両面カード)
2. SY/Yカード → SY, Y (バーコード付6欄両面カード)
3. D/Gカード → D, G-15, G-20, G-25, G-31 (4欄片面カード)
4. Hカード → H-15, H-20, H-25, H-31 (6欄片面カード)

工場出荷時の設定は 4.Hカード になっています。

例 ご使用になるタイムカード 4.Hカード を 1.Cカード に変更する場合



- 1** **選択**ボタンと**機能**ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。**選択**ボタンを押して、“▲”を「カード選択」に合わせてください。



- 2** **+**ボタン押して、“選択番号”を“1”(Cカード)に合わせ、次に**セット**ボタンを押します。
これで“1”(Cカード)が設定できました。



- 3** 設定状態からご使用状態に戻すため、**設定終了**ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

印字パターンの設定

タイムカードに印字するパターンは次の4種類の中から選択できます。

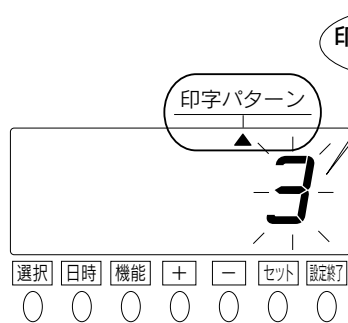
印字パターンの
選択番号

1. 日付+時:分 → ㊿10:08
2. 曜日+時:分 → 月10:08
3. 時:分(大きな印字) → 10:08
4. AM/PM+時:分 → AM10:08

21日(月)10時8分
の印字例

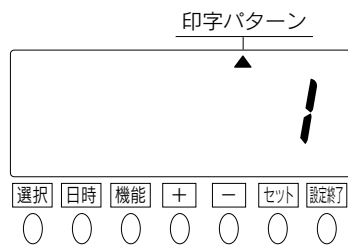
工場出荷時の設定は **3. 時:分(大きな印字)** になっています。

例 印字パターン **3. 時:分(大きな印字)** を **1. 日付+時:分** に変更する場合

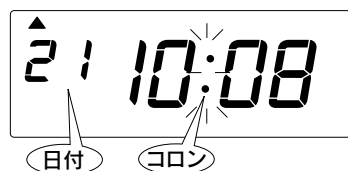


印字パターンの
選択番号

- 1** **選択**ボタンと**機能**ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。**選択**ボタンを押して“▲”を「印字パターン」に合わせてください。



- 2** **+** ボタンを押して“選択番号”を“3”(時:分(大きな印字))に合わせ、次に**セット**ボタンを押します。これで“1”(日付+時:分)が設定できました。



- 3** 設定状態からご使用状態に戻すため、**設定終了**ボタンを押します。これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

定休日の登録

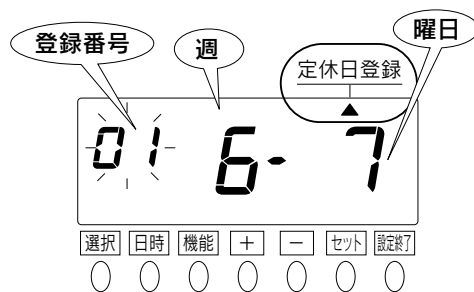
あらかじめ、定休日は“毎週”の“曜日”に設定されています。定休日を変更または追加できます。定休日は“週の設定”と“曜日の設定”で登録します。

重要!

定休日は4個(01~04)まで登録できます。

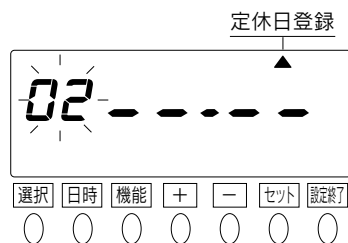
週の設定		曜日の設定	
選択番号	内容	選択番号	内容
1	第1週	1	月曜日
2	第2週	2	火曜日
3	第3週	3	水曜日
4	第4週	4	木曜日
5	第5週	5	金曜日
6	毎週	6	土曜日
--	設定解除	7	日曜日

例 “毎週”、“日曜日”の定休日に、“第2週”と“第4週”の土曜日を定休日として追加する場合

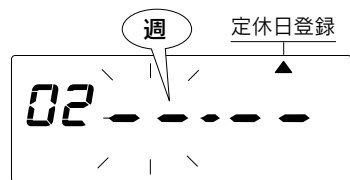


- 1 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して、“▲”を「定休日登録」に合わせてください。

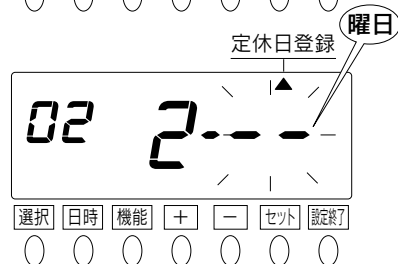
点滅しているところを変更できます。



- 2 例では登録番号“01”は“毎週”“日曜”のまま変更しませんので、+ボタンを押して、登録番号を“02”に合わせます。このとき表示の“週”、“曜日”が“--”になります。



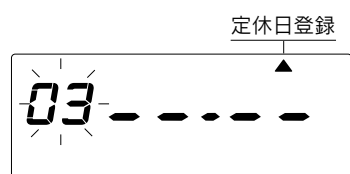
選択 日時 機能 + - セット 設定終了
0 0 0 0 0 0 0



選択 日時 機能 + - セット 設定終了
0 0 0 0 0 0 0



選択 日時 機能 + - セット 設定終了
0 0 0 0 0 0 0



選択 日時 機能 + - セット 設定終了
0 0 0 0 0 0 0



選択 日時 機能 + - セット 設定終了
0 0 0 0 0 0 0

3 登録番号“02”に“第2週”の“土曜日”を登録します。**セット**ボタンを押して、表示の点滅を“週”にします。

4 次に**+**ボタンを押して“2”（第2週）に合わせ**セット**ボタンを押します。これで“第2週”が設定できました。このとき表示の点滅は“週”から“曜日”に移ります。

5 次に**+**ボタンを押して“6”（土曜日）に合わせ**セット**ボタンを押します。これで“土曜日”が設定できました。

6 登録番号“03”に“第4週”の“土曜日”を登録します。**+**ボタンを押すと“登録番号”が点滅します。もう一度**+**ボタンを押して“03”に合わせます。

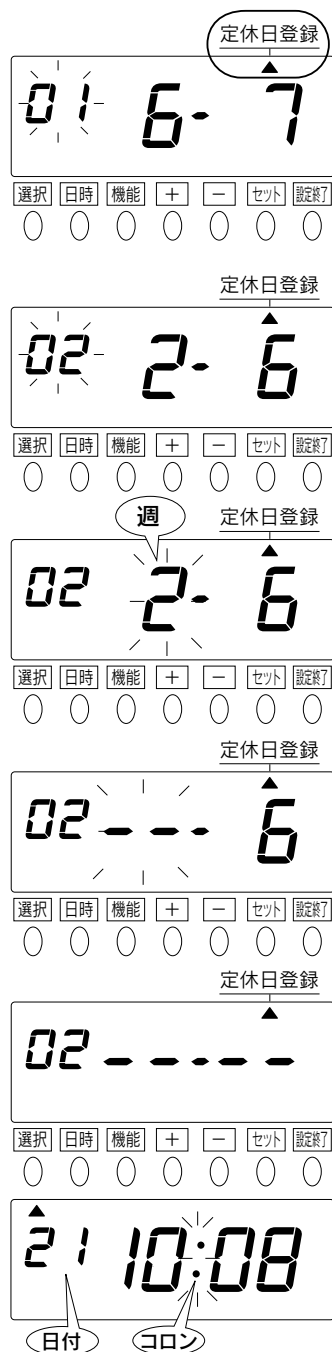
7 以下、登録番号“02”のときと同様の操作で設定してください。

8 設定状態からご使用状態に戻すため、**設定終了**ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。



タイムカードに「休日」の文字を印字するには、「6.登録した休日の印字のしかた」（42ページ）を参照ください。

●定休日の登録を取り消すには



- 1 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。

機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して、“▲”を「定休日登録」に合わせてください。

点滅しているところが変更できます。

- 2 土ボタンを押して、取り消したい定休日の“登録番号”に合わせ、セットボタンを押します。

- 3 土ボタンを押して“週”を“--”（設定解除）に合わせ、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は“--:--”になります。これで休日の登録を取り消すことができました。

- 4 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。

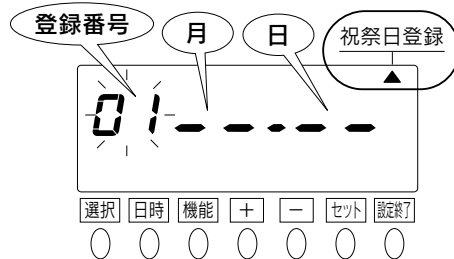
祝祭日の登録

祝祭日の登録は、“月”と“日”を指定してます。また、「定休日の登録」で指定した定休日を出勤日にすることもできます。

重要!

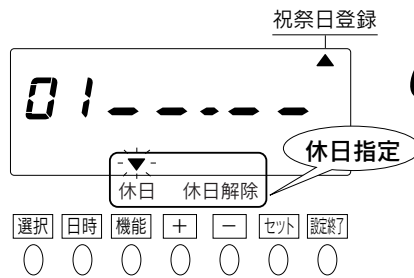
祝祭日は50個(01~50)まで登録できます。

例 4月29日を登録する場合

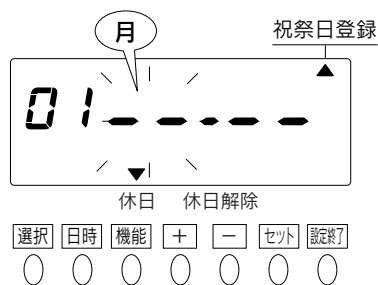


- 1 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して、“▲”を「祝祭日登録」に合わせてください。

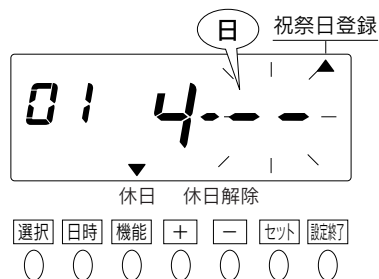
点滅しているところが変更できます。



- 2 登録番号の“01”に登録するので、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は“登録番号”から“休日指定”に移り、「休日」の上の“▼”が点滅します。



- 3 例では休日に設定するので、セット。セットボタンを押します。このとき表示の点滅は、“休日指定”から“月”に移ります。



- 4 次に $\boxed{+}$ ボタンを押して“4”月に合わせ、 $\boxed{\text{セット}}$ ボタンを押します。これで“月”の設定ができました。このとき表示の点滅が“月”から“日”に移ります。



- 5 次に $\boxed{+}$ ボタンを押して“29”日に合わせ、 $\boxed{\text{セット}}$ ボタンを押します。これで“日”の設定ができました。続けて“祝祭日”を登録するときは $\boxed{+}$ ボタンを2度押します。

- 6 その後は、上記の②～⑤を参照して、設定してください。



- 7 設定状態からご使用状態に戻すため、 $\boxed{\text{設定終了}}$ ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。



タイムカードに「休日」の文字を印字するには、「6.登録した休日の印字のしかた」(42ページ)を参照ください。

●祝祭日の登録を取り消すには

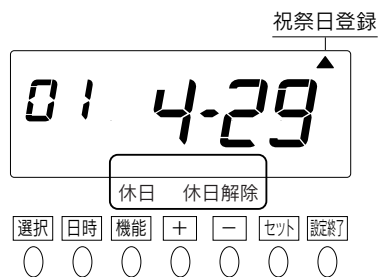


- ① 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。
- 機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して、“▲”を「祝祭日登録」に合わせてください。

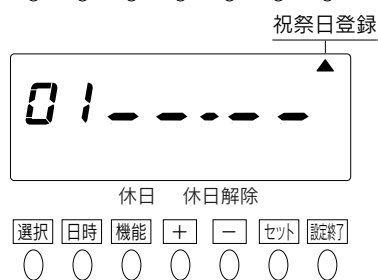
点滅しているところを変更できます。



- ② 田ボタンを押して、取り消したい祝祭日の“登録番号”に合わせ、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は“登録番号”から“休日指定”に移り、“休日”の上の“▼”が点滅します。



- ③ 田ボタンを押して“休日指定”の“▼”を消して、セットボタンを押します。このとき表示の点滅は“--:--”になります。これで祝祭日の登録を取り消すことができました。



- ④ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。



サマータイムの設定

**日本国内でサマータイムが導入されたときに
設定してください。**

タイムレコーダーのサマータイム機能について

① サマータイムの実行時間

サマータイム開始日の午前2時になると、自動的に時刻が1時間進んで午前3時となり、サマータイム終了日午前2時になると、自動的に時刻が1時間戻って午前1時となるようになっています。

② サマータイムの実行日

例えば

開始日 2007年4月1日(日曜日)

終了日 2007年10月28日(日曜日)

と設定した場合、タイムレコーダーは開始日を4月の最初の日曜日、終了日を10月の最後の日曜日と記憶します。一度設定していただければ、翌年からのサマータイムの設定はタイムレコーダーが自動的に

開始日 4月の最初の日曜日

終了日 10月の最後の日曜日

と更新しますので、その後の設定は不要です。

工場出荷時は、サマータイム開始日、サマータイム終了日の設定はされていません。

サマータイムの設定は、その年の開始日と終了日の月日を入力することにより行います。

次の例でサマータイムの設定方法を説明します。

例

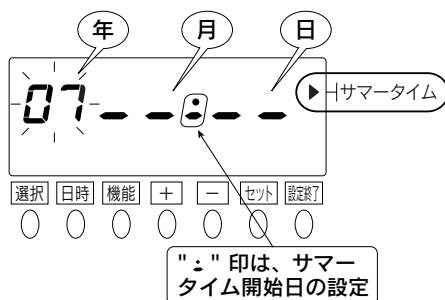
今日(現在日) 2007年1月31日(水)

サマータイム開始日 2007年4月1日(日) < 4月最初の日曜日 >

サマータイム終了日 2007年10月28日(日) < 10月最後の日曜日 >

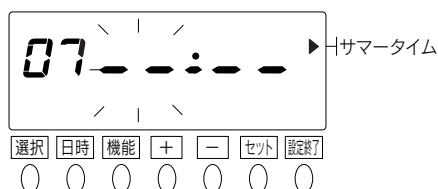
●サマータイム開始日の設定

例 開始日：4月の最初の日曜日の場合（2007年4月1日の場合）

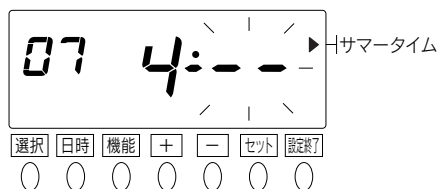


- 1 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して“▲”を「サマータイム」に合わせてください。

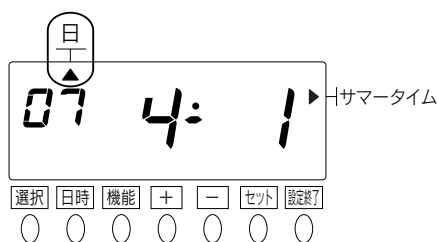
点滅しているところが変更できます。



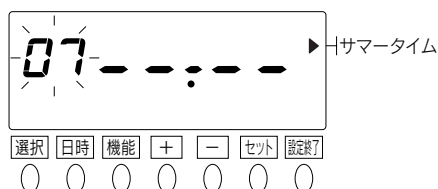
- 2 例では、“年”は2007年のまま変更しませんので、このままセットボタンを押します。
このとき表示の点滅は、“年”から“月”に移ります。



- 3 サマータイム開始の“月”を設定します。
田ボタンを押して、“4”月に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで4月が設定できました。
このとき表示の点滅は、“月”から“日”に移ります。



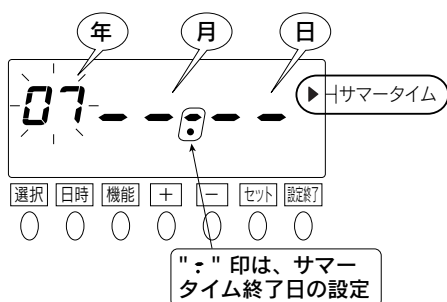
- 4 サマータイム開始日の“日”を設定します。
田ボタンを押して“1”日に合わせ、次にセットボタンを押します。
これで“1”日が設定でき、サマータイム開始日の設定が終了しました。



- 5 この設定の終了後、数秒すると、サマータイム終了日の設定に移ります。
サマータイム終了日の設定方法は次ページをご参照ください。

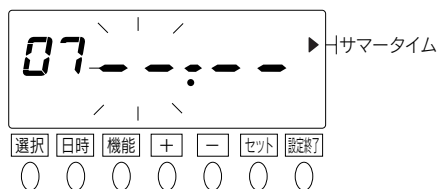
●サマータイム終了日の設定

例 終了日：10月の最後の日曜日の場合（2007年10月28日の場合）

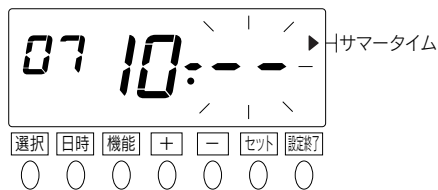


- 1 サマータイムの開始日を設定後、数秒すると、サマータイム終了日の設定に移ります。

点滅しているところを変更できます。



- 2 例では、“年”は2007年のまま変更しませんので、このまま**セット**ボタンを押します。このとき表示の点滅は、“年”から“月”に移ります。



- 3 サマータイム終了の“月”を設定します。
 田ボタンを押して、“10”月に合わせ、次に**セット**ボタンを押します。これで10月が設定できました。このとき表示の点滅は、“月”から“日”に移ります。



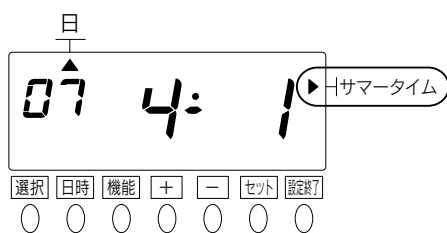
- 4 サマータイム終了日の“日”を設定します。
 田ボタンを押して、“28”日に合わせ、次に**セット**ボタンを押します。これで28日が設定できました。このとき表示の“日”の点滅が点灯に変わり、日曜日の下に“▲”印が点灯します。これでサマータイム終了日の設定が終了しました。



- 5 設定状態からご使用状態に戻すため、**設定終了**ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。

●サマータイム設定を取り消す場合

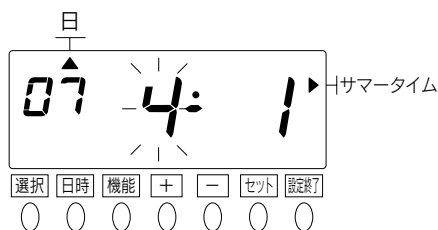
一度設定されたサマータイム設定を取り消す場合、“サマータイムの開始日”の“月”の表示を“--”とすることによりサマータイムは無効になります。



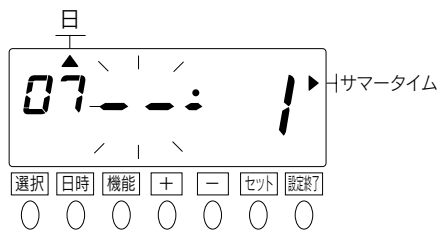
① 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。

機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して“▲”を「サマータイム」に合わせてください。

点滅しているところが変更できます。

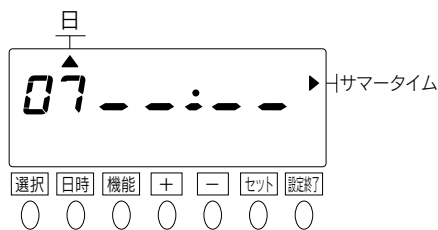


② “年”は変更しませんので、このままセットボタンを押します。このとき表示の点滅は、“年”から“月”に移ります。



③ サマータイム開始の“月”を 田 ボタンを押して、“--”に合わせ、次に 田 ボタンを押します。このとき表示の点滅は、“--:--”になります。

これでサマータイムの設定を取り消すことができました。



④ 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンの点滅し、ご使用状態に戻りました。

カバーをつけてご使用ください。



プログラムの設定

プログラムとは、出勤時や退勤時に操作ボタンを押さなくても、印字欄を自動で切換えたりする設定プログラムのことをいいます。
また、曜日と時間帯に応じて印字する色を指定したり、タイムカードに印字する欄(横方向の印字するマス目)を指定したり、メロディや外部時報を吹鳴する時刻を指定したりすることができます。
工場出荷時にはプログラムは設定されていません。

重要!

プログラムは48個(P01～P48)まで設定できます。プログラムを設定しない時間帯は、1欄目に印字します。

次の例でプログラムについて説明します。

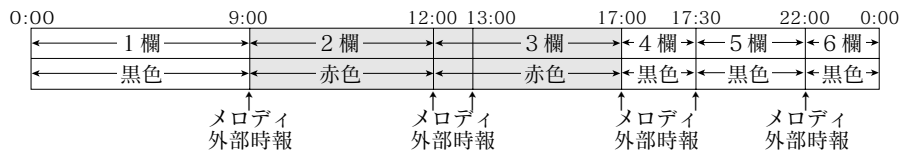
- ある会社の就業時間(月～金)
 - 09:00 始業(9:00以降の出勤は遅刻)
 - 12:00～13:00 お昼休み
 - 17:00 終業(17:00以前の退社は早退)
 - 17:30 残業
 - 22:00 深夜残業

タイムレコーダーでの一日は、タイムカードの印字する行(印字段)が切り換わる「印字段切換時刻」から始まります。

📖 「印字段切換時刻の設定」(18ページ)をご参照ください。

●プログラムのタイムテーブル

(例) 印字段切換時刻が「00:00」の場合



次に、この例のプログラム表を作成してみます。

●プログラム表

プログラムNo.	曜日	時刻	印字欄	印字色	外部時報	メロディ
01	月～金	09:00～	2欄	赤色(1)	吹鳴(1)	曲番1
02	月～金	12:00～	3欄	赤色(1)	吹鳴(1)	曲番2
03	月～金	13:00～	—	—	吹鳴(1)	曲番3
04	月～金	17:00～	4欄	黒色(2)	吹鳴(1)	曲番4
05	月～金	17:30～	5欄	黒色(2)	吹鳴(1)	曲番5
06	月～金	22:00～	6欄	黒色(2)	吹鳴(1)	曲番6

メロディは以下の7曲の中から選択できます。

曲番1：ウェストミンスター・チャイム

曲番2：アメイジング・グレイス

曲番3：ジュピター(組曲『惑星』より)／G.ホルスト作

曲番4：花のワルツ(組曲『くるみ割り人形』より)／P.I.チャイコフスキー作

曲番5：愛の挨拶／E.W.エルガー作

曲番6：プロムナード(組曲『展覧会の絵』より)／M.P.ムソルグスキー作

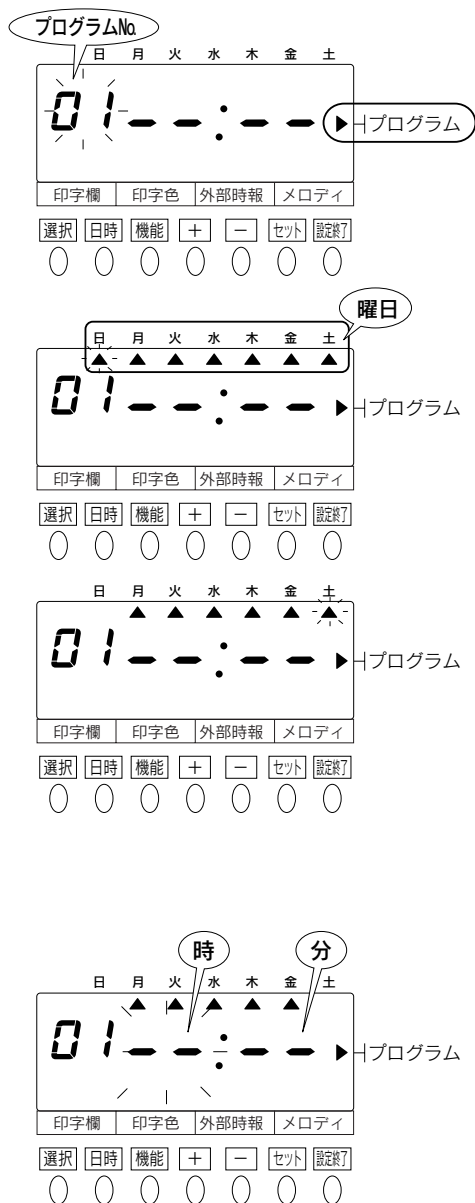
曲番7：あし笛の踊り(組曲『くるみ割り人形』より)／P.I.チャイコフスキー作

●プログラムを設定するには

31ページのプログラム表にしたがって、設定の手順を説明します。

重要!

まず最初に、ご自分の会社の就業時間に合わせて、31ページのプログラム表を作成してから、プログラムの設定をしてください。



① 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。

機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「曜日」に合います。選択ボタンを押して、“▲”を「プログラム」に合わせてください。

点滅しているところが変更できます。

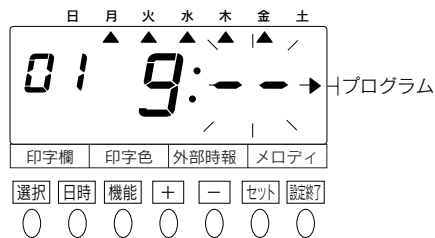
② プログラムNo.“01”の内容を設定します。

(1) プログラムNo.“01”が選択されているので、そのままセットボタンを押します。これで「曜日」の設定ができるようになります。

(2) □ボタンを押します。このとき“日”曜日の下の“▲”が消えて、“月”曜日の下の“▲”が点滅します。⊞ボタンを押すと“月”曜日の下の“▲”が点灯して、“火”曜日の下の“▲”が点滅します。同じ方法で“火”～“金”曜日まで⊞ボタンを押して、“土”曜日で□ボタンを押します。

⊞ボタンは“▲”を点灯するときに、□ボタンは“▲”を消すときに、押します。

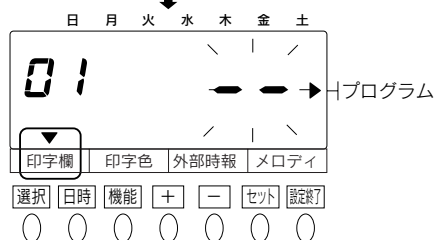
(3) セットボタンを押します。これで、“曜日”の設定ができました。このとき表示の点滅は“曜日”から“時:分”の“時”に移り、“時刻”を設定できるようになります。



(4) **+** ボタンを押して、“9” 時に合わせ、次に**セット** ボタンを押します。これで“9” 時が設定できました。このとき表示の点滅は“時” から“分” に移ります。



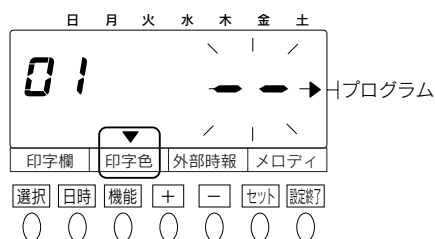
(5) **+** ボタンを押して、“00” 分に合わせ、次に**セット** ボタンを押します。これで“00” 分が設定できました。このとき表示の点滅は“分” から“印字欄” に移ります。

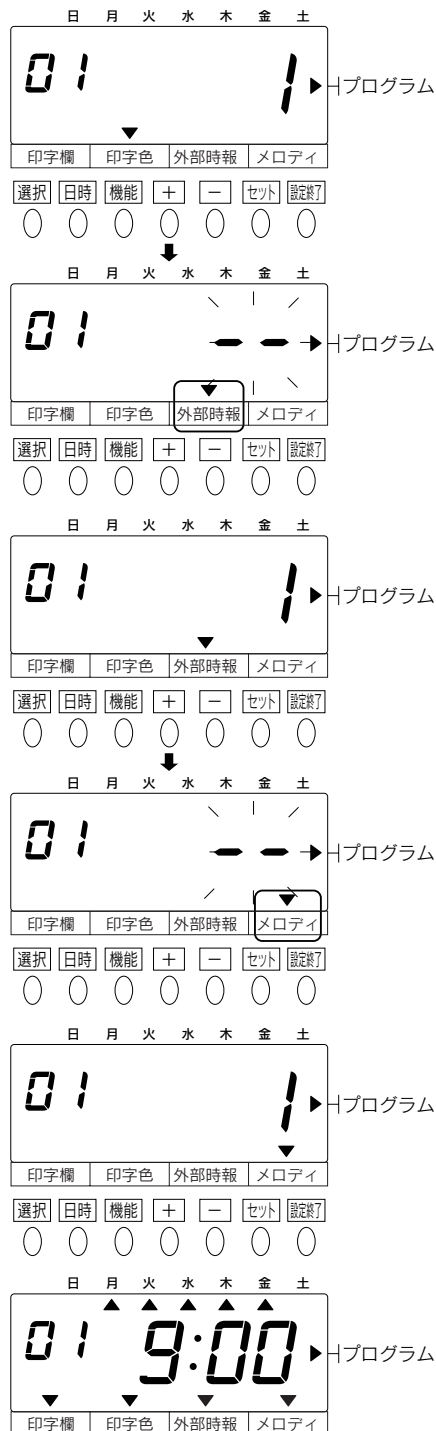


(6) **+** ボタンを押して、“2” 欄に合わせ、次に**セット** ボタンを押します。これで“2” 欄が設定できました。このとき表示の点滅は“印字欄分” から“印字色” に移ります。



設定値	印字欄
1	1 欄
2	2 欄
3	3 欄
4	4 欄
5	5 欄
6	6 欄
—	指定しない





(7) **+** ボタンを押して、“1” (赤色) に合わせ、次に **セット** ボタンを押します。これで“1” (赤色) が設定できました。このとき表示の点滅は“印字色分”から“外部時報”に移ります。

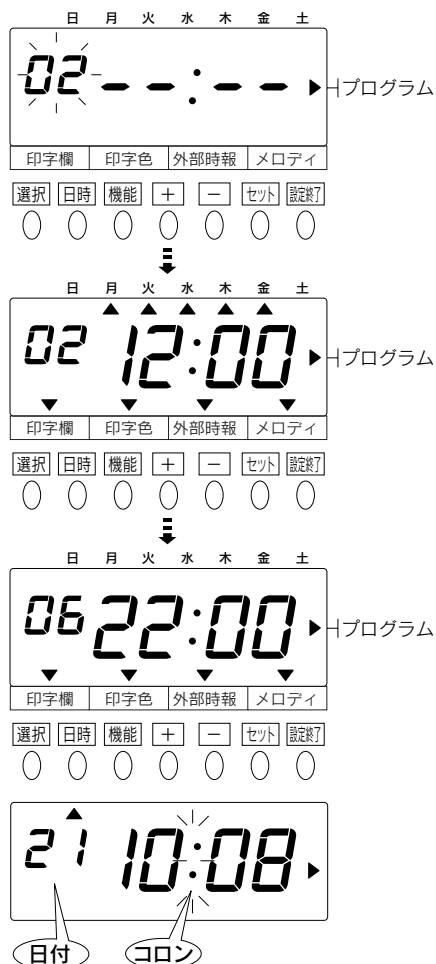
設定値	印字色
1	赤
2	黒
—	指定しない

(8) **+** ボタンを押して、“1” (吹鳴する) に合わせ、次に **セット** ボタンを押します。これで“1” (吹鳴する) が設定できました。このとき表示の点滅は“外部時報”から“メロディ”に移ります。

設定値	外部時報
1	吹鳴する
—	吹鳴しない

(9) **+** ボタンを押して、曲番“1”に合わせ、次に **セット** ボタンを押します。これでプログラムNo.“01”が設定できました。

設定値	曲目
1	ウェストミンスター・チャイム
2	アメイジング・グレイス
3	ジュピター (組曲『惑星』より)
4	花のワルツ (組曲『くるみ割り人形』より)
5	愛の挨拶
6	ブромナード (組曲『展覧会の絵』より)
7	あし笛の踊り (組曲『くるみ割り人形』より)
—	メロディーを鳴らさない



3 プログラムNo.“02”の内容を設定します。

(1) **セット** ボタンを1回押して、上記で設定したプログラムNo.“01”を点滅させます。次に**+** ボタンを押してプログラムNo.“02”に合わせ、**セット** ボタンを押します。

プログラムNo.“01”と同様の操作(32ページの②-(2)～(9))でプログラムNo.“02”を設定します。

4 プログラムNo.“03”～“06”も同様の操作で設定します。

すべてのプログラムの設定ができたなら、**設定終了** ボタンを押します。これで設定は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。

●プログラムの内容を確認するには

選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。

機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「曜日」に合います。

選択ボタンを押して、表示の“▲”を「プログラム」に合わせます。+ボタンを押すごとに、“01”→“02”→“03”…の順番でプログラムの内容を確認できます。



●プログラムの内容を変更するには

選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。

機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「曜日」に合います。

選択ボタンを押して、表示の“▲”を「プログラム」に合わせます。+ボタンを押して変更したいプログラムNo.を点滅させます。設定したときと同じように+ボタン、セットボタンを押して、そのプログラムを設定しなおしてください。



●プログラムの内容を消すには

選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。

機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「曜日」に合います。

選択ボタンを押して、表示の“▲”を「プログラム」に合わせます。+ボタンを押して消したいプログラムNo.を点滅させ、セットボタンを1回押します。+ボタンを押して各“曜日”の下“▲”を全て消します。次にセットボタンを1回押すことにより右下図のようになりプログラムが消去できます。



設定後は、必ず設定終了ボタンを押してください。

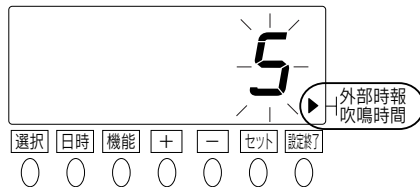
外部時報の吹鳴時間の設定

外部時報の吹鳴時間を秒単位で1秒間～30秒間まで設定できます。

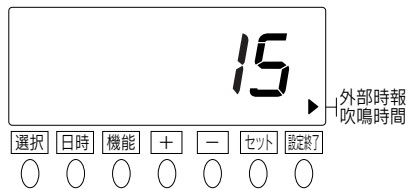


外部時報を吹鳴させる時刻(始業時刻や就業時刻等)は、プログラムの設定(31ページ)を参照してください

例 吹鳴時間を5秒間から15秒間に変更する場合



- 1 **選択**ボタンと**機能**ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。**選択**ボタンを押して、“▲”を「外部時報吹鳴時間」に合わせてください。



- 2 **+**ボタン押して、“吹鳴時間”を“15”秒間に合わせ、次に**セット**ボタンを押します。
これで“15”秒間が設定できました。



- 3 設定状態からご使用状態に戻すため、**設定終了**ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

— パスワードの設定／解除 —

改ざん目的などの故意の時間修正や設定の変更を防止するため4桁のパスワードを設定できます。

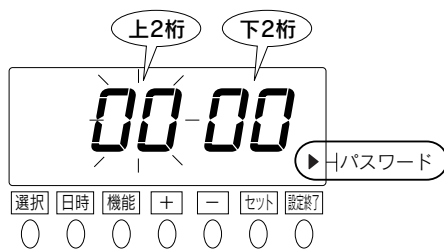
●パスワードを設定するには

パスワードは“0001～9998”までの数字で設定してください。“0000”及び“9999”は設定できません。

重要!

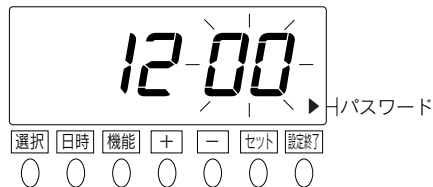
パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や設定を変更できません。

例 パスワードを“1234”に設定する。

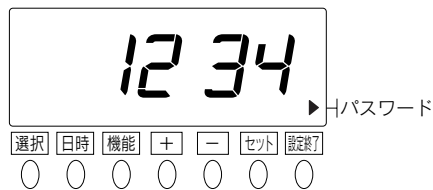


- 1 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、画面に表示されている“▲”が「締日」に合います。選択ボタンを押して、“▲”を「パスワード」に合わせてください。

点滅しているところが変更できます。



- 2 田ボタンを押して表示の点滅を“12”に合わせ、次にセットボタンを押します。このとき表示の点滅は“上2桁”から“下2桁”に移ります。



- 3 田ボタンを押して表示の点滅を“34”に合わせ、次にセットボタンを押します。これでパスワードの設定ができました。

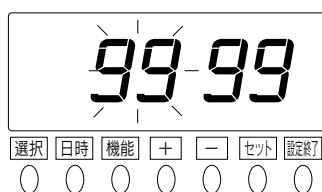


- 4 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

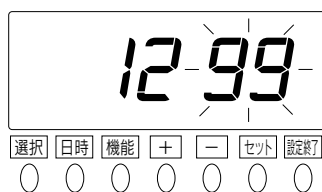
●パスワードを設定した後に他の設定内容を変更するには

パスワードを設定した場合は、パスワードを入力しないと、時刻修正や各種設定を変更できません。パスワードは忘れないように管理してください。

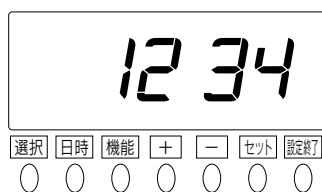
例 パASSWORDが“1234”の場合



- 1 選択ボタンと日時ボタン(日時設定モード)、または選択ボタンと機能ボタン(機能設定モード)を同時に約3秒間押します。
“9999”が表示され、上2桁が点滅します。



- 2 +ボタンを押して、設定したパスワードの上2桁(ここでは“12”)に合わせ、セットボタンを押します。
このとき、表示の点滅はパスワードの下2桁に移ります。



- 3 +ボタンを押して、設定したパスワードの下2桁(ここでは“34”)に合わせ、セットボタンを押します。

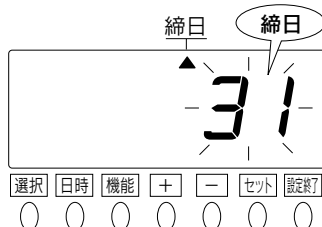
●日時設定モードの場合

※表示時刻が10時8分45秒の場合



これにより、日時設定モードの場合は「時刻」の設定画面に、機能設定モードの場合は「曜日」の設定画面になり、設定の変更が可能になります。

●機能設定モードの場合



●パスワードを解除するには

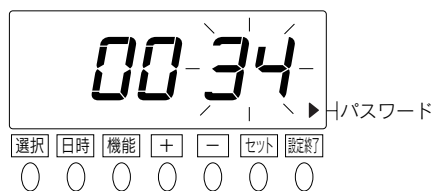
設定したパスワードを入力後、“0000”を設定することにより、パスワードを解除できます。

例 パスワード“1234”を解除する。

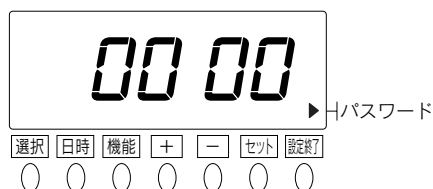


- 1 選択ボタンと機能ボタンを同時に約3秒間押します。
機能設定モードになり、“9999”が表示されます。前ページの②～③の操作をした後に、選択ボタンを押して、画面に表示されている“▲”を「パスワード」に合わせてください。左図のように表示され、パスワードの上2桁が点滅します。

点滅しているところが変更できます。



- 2 +ボタン押して、表示の点滅を“00”に合わせ、セットボタンを押します。
このとき表示の点滅は“上2桁”から“下2桁”に移ります。



- 3 +ボタンを押して、表示の点滅を“00”に合わせ、セットボタンを押します。これでパスワードを解除できました。



- 4 設定状態からご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。
これで設定は終了です。
表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。
カバーをつけてご使用ください。

重要!

パスワードを忘れてしまった場合は、後述の「オールクリア」を行ってください。
なお、オールクリアを行うと、各設定項目は初期の状態に戻りますので、あらためて設定し直してください。日付や時刻も設定してください。



「オールクリア」(41ページ)、
「設定のしかた」(13ページ)をご参照ください。

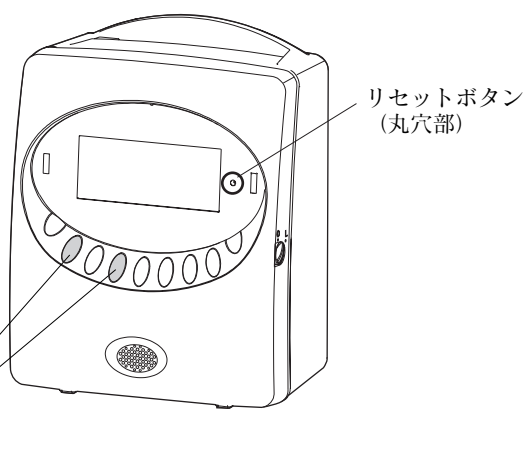
— オールクリア —

すべての設定を初期の状態に戻したいときに行います。

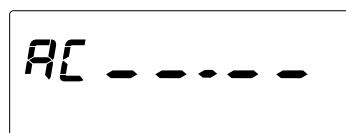
注意

オールクリアすることにより、お客様が設定した内容は消えてしまいますので、あらためて設定してください。日付や時刻も設定してください。

📖 「設定のしかた」(13ページ) をご参照ください。



選択ボタンと機能ボタンを同時に押しながら、リセットボタンを押します。



選択ボタンと変更ボタンを同時に押しながら、先の細いものでリセットボタンを押すと、表示は左図のようになり、設定は初期状態になります。



※時刻と日付は必ず設定し直してください。

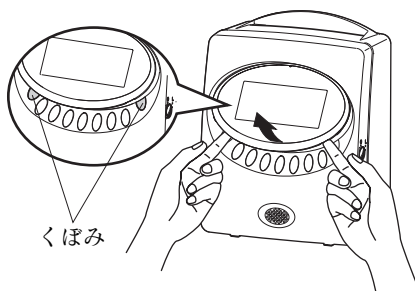
6.登録した休日の印字の仕方

ご使用になるタイムカードに、あらかじめ1ヵ月分の休日(定休日、祝祭日)を印字することができます。カードを挿入すると、登録されている休日に対応する行の最右欄に赤色で「休日」の文字を印字します。

タイムカードへ「休日」の文字を印字しておく、休日が一目でわかり大変便利です。片面カードは1回、両面カードは表と裏の計2回を挿入します。

●当月の休日を印字するには……

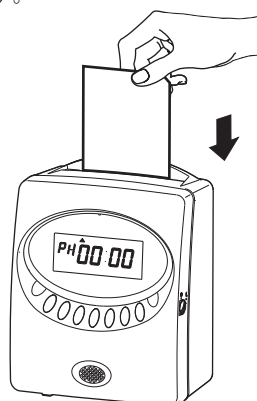
- ① カバー下部の左右2ヶ所のくぼみに指を入れ、手前に引くようにしてカバーを外します。



- ② 選択ボタンと当月休日印字ボタンを同時3秒間押します。当月休日印字モードになり、画面が下図のようになります。



- ③ タイムカードの表面を手前にして、タイムレコーダーに入れます。表面に「休日」が印字されます。両面カードをご使用の場合は、続けて裏面を手前にしてカードを入れます。裏面に「休日」が印字されます。引き続き別のタイムカードに「休日」を印字するときは、この作業を繰り返します。



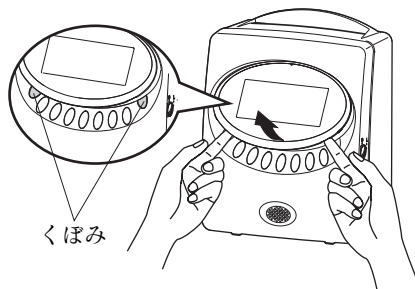
- ④ すべてのタイムカードの印字が終わったら、当月休日印字モードからご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで印字は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。



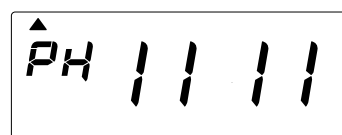
すべての休日を印字すると自動的にタイムカードが排出されます。印字中にタイムカードを引き抜くと正常に印字できなくなりますのでご注意ください。

●来月の休日を印字するには……

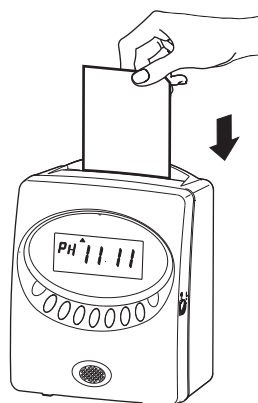
- ① カバー下部の左右2ヶ所のくぼみに指を入れ、手前に引くようにしてカバーを外します。



- ② 選択ボタンと来月休日印字ボタンを同時3秒間押します。当月休日印字モードになり、画面が下図のようになります。



- ③ タイムカードの表面を手前にして、タイムレコーダーに入れます。表面に「休日」が印字されます。両面カードをご使用の場合は、続けて裏面を手前にしてカードを入れると、裏面に「休日」が印字されます。引き続き別のタイムカードに「休日」を印字するときは、この作業を繰り返します。



- ④ すべてのタイムカードの印字が終わったら、来月休日印字モードからご使用状態に戻すため、設定終了ボタンを押します。これで印字は終了です。表示は時刻のコロンが点滅し、ご使用状態に戻りました。カバーをつけてご使用ください。



すべての休日を印字すると自動的にタイムカードが排出されます。印字中にタイムカードを引き抜くと正常に印字できなくなりますのでご注意ください。

7. 外部時報のつなぎ方

タイムレコーダーに外部時報機器(チャイムなど)を接続してご使用する場合は、外部接点仕様をよくご確認の上、以下の手順で接続してください。

重要!



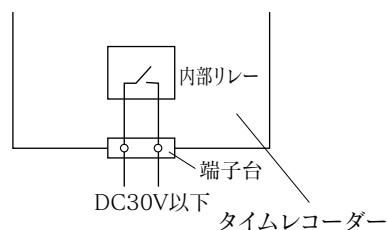
外部時報を吹鳴するための設定は「プログラムの設定」(31ページ)および「外部時報の吹鳴時間の設定」(37ページ)を参照してください。

重要!

外部接点仕様

接点出力: 無電圧接点出力 1回路

接点容量: DC負荷 30V 3.0A以下



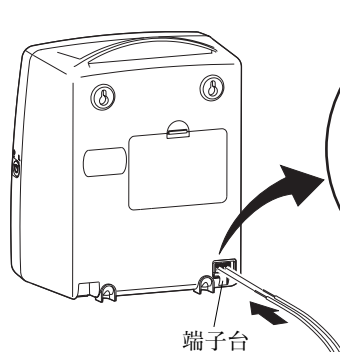
注意



外部時報機器を接続する際に、外部時報機器およびタイムレコーダーの電源コンセントが接続されている場合は、電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。火災、感電の原因となる場合があります。



接続した電線は、不用意に抜けないようにタイムレコーダーの近くでクランプ止めなどをして抜けないように固定してください。電線が抜けた場合、火災、感電の原因となる場合があります。



①

外部時報機器およびタイムレコーダーの電源コードが接続されている場合は、電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

②

図のように、端子台の上側のボタンをマイナスドライバーで押しながら、外部時報機器の電線を2本差込みます。

8. メロディを試聴するには

メロディ試聴モードでメロディを試聴できます。メロディは全部で以下の7曲です。

曲番1：ウェストミンスター・チャイム

曲番2：アメイジング・グレイス

曲番3：ジュピター（組曲『惑星』より）／G.ホルスト作

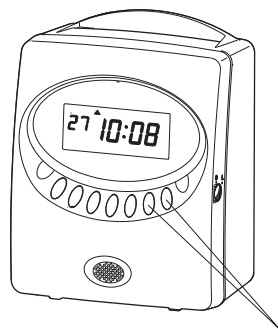
曲番4：花のワルツ（組曲『くるみ割り人形』より）／P.I.チャイコフスキー作

曲番5：愛の挨拶／E.W.エルガー作

曲番6：プロムナード（組曲『展覧会の絵』より）／M.P.ムソルグスキー作

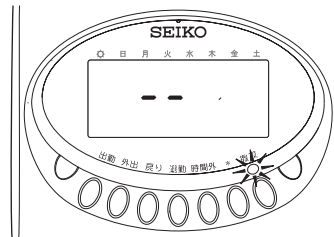
曲番7：あし笛の踊り（組曲『くるみ割り人形』より）／P.I.チャイコフスキー作

- ① ***ボタンと徹夜ボタンを同時に3秒押します。**

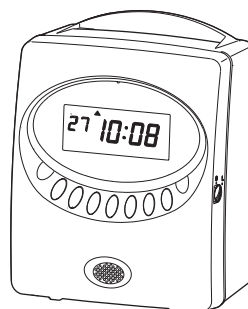
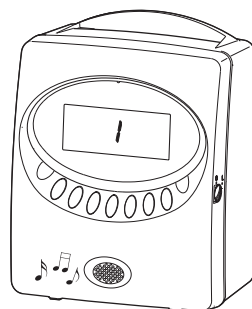


同時に3秒押す

- ② **徹夜ボタンのランプがついて液晶表示部に“--”が表示して、メロディ試聴モードになります。**



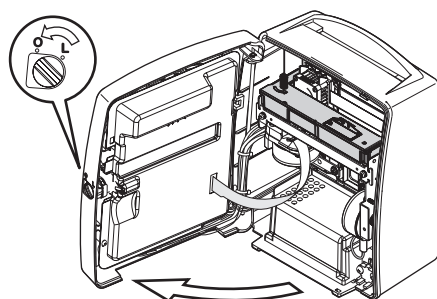
- ③ **徹夜ボタンを押すたびに、曲番が順番に表示されてメロディが試聴できます。**
***ボタンを押すとメロディの試聴を一旦止めることができ、徹夜ボタンを押すと再び表示されている曲番のメロディが試聴できます。**
出勤、外出、戻り、退勤、時間外ボタンのいずれかを押すとメロディ試聴モードからご使用状態に戻ります。



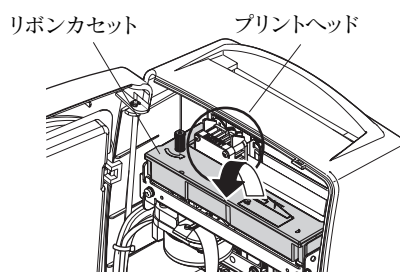
9. リボンの交換

タイムカードに印字される文字がうすくなった場合は、リボンカセットを交換してください。あらかじめ装着されているリボンカセットは、工場出荷時の機能検査用（モニタ印字リボン）です。ご使用時、一部うすく印字される場合がありますのでご了承ください。

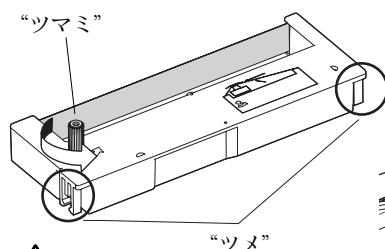
- 1** タイムレコーダー左側面にある開閉レバー“O (OPEN)”にして、前扉を開きます。



- 2** リボンカセットを上を持ち上げて、取り出します。



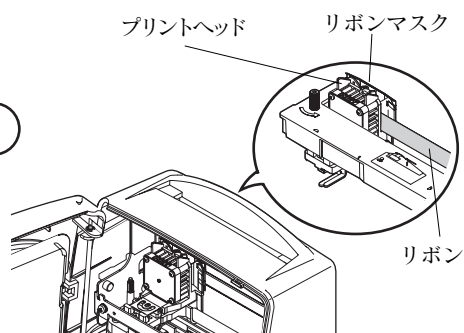
- 3** 新しいリボンカセットのツマミを矢印方向に回して、リボンのたるみをとります。



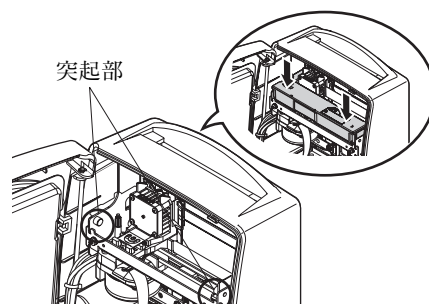
⚠ 注意

矢印の反対方向に回すとリボンカセットが故障します。矢印の反対方向には回さないでください。

- 4** リボンマスクとプリントヘッドの間にリボンを入れます。



- 5** リボンカセットの下側のツメをタイムレコーダーの突起部に入れて、パチンと音がするまで押し込みます。

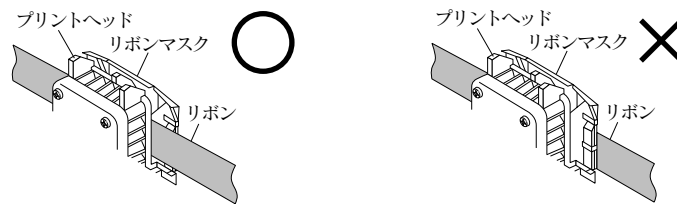


リボン交換時のご注意

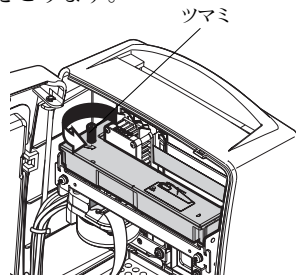
新しいリボンカセットを入れるときには、次のことに注意してください。

下図のようにリボンが、**プリントヘッド**と**リボンマスク**の**間に入る**ようにリボンカセットを入れてください。(左側の図)

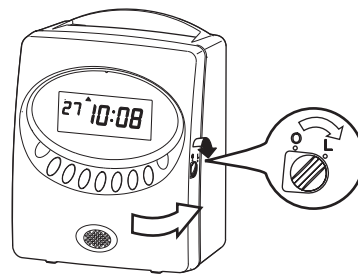
リボンをリボンマスクの奥側にいれてしまうと、正常に印字できません。(右側の図)



- 6** 装着したリボンカセットのツマミを矢印の方向に回して、リボンのたるみをとります。

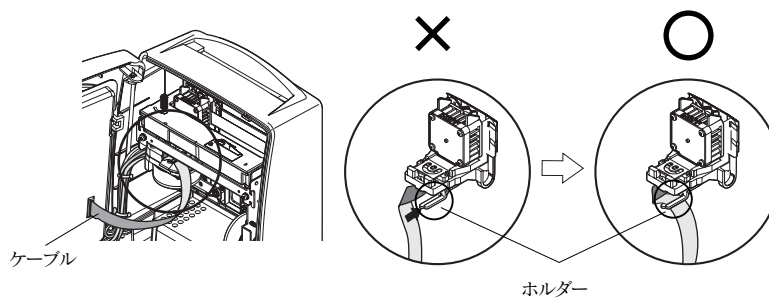


- 7** 前扉を閉め、開閉レバーを“L (LOCK)”に合わせます。



! リボンカセット交換時に、ケーブルに触ったり、プリントヘッドを手で移動させたりしないでください。故障する恐れがあります。

! ケーブルがホルダーからはずれた場合は、図に従って装着してください。はずれたままご使用になると、タイムレコーダーが破損する恐れがあります。



! 前扉を開けたまま、開閉レバーを“L (LOCK)”にしないでください。故障する恐れがあります。

10. Q & A

Q1 違う日にちの段に印字されるのですが、どうすればいいですか？

A1 次の3つをご確認ください。

- (1) ご使用になるタイムカードの種類とタイムレコーダーに設定したタイムカードの種類があっているか？

両面カードは赤い面の右下に書いてある数字（例：C-25はCカードの25日締めになります。）をご確認ください。

片面カードは表面の左下に書いてある数字（例：H-25はHカード25日締めになります。）をご確認ください。

対処方法→機能設定モードにしてカード選択の設定を正しい数値に設定してください。

 「カードの選択」（19ページ）をご参照ください。

- (2) 締日が違う数値で設定されていないか。

対処方法→機能設定モードにして、締日を正しい数値に設定してください。

 「締日の設定」（17ページ）をご参照ください。

大の月、小の月によらず、月末締めの場合は締日“31”日のままでご利用いただけます。

C-31のタイムカードは、15日締としてもご使用いただけます。
その際は、締日の設定を“31(月末締)”にして、赤い面からご使用ください。

- (3) 印字段切換時刻が従業員の勤務している時刻に設定されていないか。

対処方法→印字段切換時刻は、従業員が退勤して誰もいなくなる時間帯で設定してください。

 「印字段切換時刻の設定」（18ページ）をご参照ください。

Q2 タイムレコーダーが動かなくなったのですが？

A2 タイムレコーダーの側面にある開閉レバーが“O (OPEN)”になっていないかどうかを確認してください。“O (OPEN)”になっていたら、開閉レバーを“L (LOCK)”にしてください。また、前扉が閉じた状態で、開閉レバーが“L (LOCK)”になっていても、動作しない場合は、電源プラグをコンセントから一度抜いて、差し直してみてください。それでも、動作しない場合は、販売店もしくは当社までご連絡ください。

Q3 このタイムレコーダーは何人まで使えるのですか？

A3 推奨人数は50人です。それ以上の人数でご使用になると、タイムレコーダーの消耗が早くなり、故障の原因にもなります。

Q4 エラー番号「E-03」(タイムカードの表裏が間違っている)が表示されて、印字ができないのですが？

A4 タイムカードを反対の面にして、タイムカードをタイムレコーダーに挿入してください。また、次の3つをご確認ください。

- (1) ご使用になるタイムカードの種類とタイムレコーダーに設定したタイムカードの種類があっているか？

両面カードは赤い面の右下に書いてある数字(例：C-25はCカードの25日締めになります。)をご確認ください。

片面カードは表面の左下に書いてある数字(例：H-25はHカード25日締めになります。)をご確認ください。

対処方法→機能設定モードにしてカード選択の設定を正しい数値に設定してください。

 「カードの選択」(19ページ)をご参照ください。

- (2) 締日が違う数値で設定されていないか。

対処方法→機能設定モードにして、締日を正しい数値に設定してください。

 「締日の設定」(17ページ)をご参照ください。

大の月、小の月によらず、月末締めの場合は締日“31”日のまでご利用いただけます。

C-31のタイムカードは、15日締としてもご使用いただけます。
その際は、締日の設定を“31(月末締)”にして、赤い面からご使用ください。

- (3) 印字段切換時刻が従業員の勤務している時刻に設定されていないか。

対処方法→印字段切換時刻は、従業員が退勤して誰もいなくなる時間帯で設定してください。

 「印字段切換時刻の設定」(18ページ)をご参照ください。

Q5 印字段切換時刻を越えて勤務した場合、

出勤と同じ日付に退勤の印字はできませんか？

A5 できます。〔徹夜〕ボタンを押してからタイムカードをタイムレコーダーに挿入してください。出勤と同じ日付の6欄目に「テ」のコメント付きで印字されます。

11. こんなときには

エラー番号が表示されたら

以下を参照して正しい操作を行ってください。

番号	エラー内容	対策
E-00	CPUが正しく動きません。	販売店もしくは当社までご連絡ください。
E-01	メモリーバックアップ用リチウム電池の容量不足です。	
E-03	挿入したタイムカードの表裏が間違っています。	タイムカードの表裏を反対にして挿入してください。
E-04	カードが正しくありません。	カード選択の設定を正しい値に設定してください
E-05	タイムカードを正しく引き込むことができません。	
E-15	タイムカードを正しく引き込むことができません。 (カードセンサーエラー)	タイムレコーダー内部にクリップ、付箋紙などの異物やタイムカードが詰まっているか確認してください。また、リボンカセットがきちんとセットされているか確認してください。
E-30	印字ができません。 プリンタのモーター、またはホームポジションセンサーに異常があります。	確認が済みましたら、カバーを閉じてください。 それでもエラー番号が表示される場合は、販売店もしくは当社までご連絡ください。
E-38	印字ができません。 プリンタのヘッドが正しく動きません。	
E-40	パスワードエラーです。	パスワードを正しく入力してください。
E-41	サマータイムが正しく設定されていません。	サマータイムの開始日、または終了日の設定内容を確認して、正しい値を設定してください。
E-49	設定できない値を入力しています。	設定内容を確認して、正しい値を設定してください。
E-50	タイムカードが使用できない状態、またはSY／Yカード以外のカードが使用されています。	セイコーSY／Yカードかどうかを確認のうえ、タイムカードのバーコード部分に汚れや破損がないかを確認してください。

回復しない場合にはご購入の販売店もしくは当社までご連絡ください。